

米失業率は8.4%に低下

ポイント① 雇用増ペースは鈍化

9月4日発表の8月の米国雇用統計によれば、失業率は8.4%と4か月連続で低下し、5か月ぶりに10%を下回りました。非農業部門の就業者数は前月比137.1万人増加しました。ただ、就業者の増加数は5～7月に比べて小幅であり、雇用の改善ペースはやや鈍化しているようです。就業者の5～8月の増加分は、3、4月の減少分のまだ半分にも達していません。

ポイント② 企業と家計の景況感に差

8月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、製造業が前月から上昇したのに対し、非製造業は若干低下しました。ただ、両者とも拡大／縮小の分岐点となる50を大きく超えています。

一方、ミシガン大学調査の米消費者マインド指数は8月も低水準に留まり、企業と家計の景況感の差が広がっていることが伺われます。雇用不安が残っていることが、家計の景況感の改善を遅らせているのではないかと考えられます。

ポイント③ 近づく大統領選挙

11月3日に大統領選挙を控え、雇用情勢に対する評価は、選挙の行方を大きく左右する可能性があります。現職のトランプ大統領は、新型コロナウイルスのワクチンや治療薬の導入などによって経済活動の正常化が進み、雇用の回復が続くとして、自らの政策が正しいと主張するでしょう。一方、民主党のバイデン候補は感染拡大や雇用不安に対するトランプ大統領の責任を追及する構えでしょう。

景気、雇用を巡る両者の論戦を、米国の有権者がどのように判断するかが注目されます。

図1：米国の失業率と非農業部門就業者数

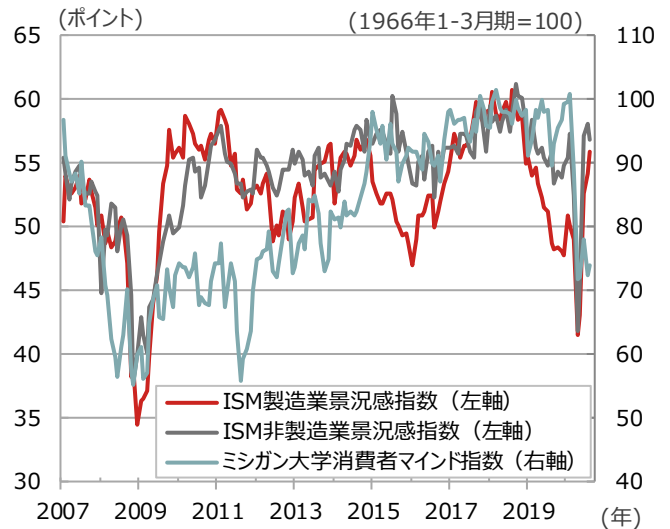
期間：2020年1月～2020年8月、月次

	失業率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
		総数	前月比増減
2020年			
1月	3.6	15,221	21.4
2月	3.5	15,246	25.1
3月	4.4	15,109	-137.3
4月	14.7	13,030	-2,078.7
5月	13.3	13,303	272.5
6月	11.1	13,781	478.1
7月	10.2	13,954	173.4
8月	8.4	14,091	137.1

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米ISM景況感指数と米消費者マインド指数

期間：2007年1月～2020年8月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

9月15日 米鉱工業生産指数 (8月)
9月16日 米小売売上高 (8月)
米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。